

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防ポンプ車とガレージの接触による積載資器材(三連はしご)の破損事故
3. 体験した事例の中心的要素	消防ポンプ車にて、防火対象物(目標物)の所在地等を確認・調査業務中、進行先の道路狭隘により方向転回を図ろうと後退した際、消防ポンプ車の上部に積載してある三連はしごの基部とガレージ(鉄骨)が接触して、三連はしごが変形・破損したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	危険箇所(ガレージ)のある場所で方向転回(後退)したこと。 後方誘導員に頼ってしまい、運転者本人の目視による安全確認が不足していたこと。 後方誘導員の技術・知識的な未熟。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。 行動の意志決定に問題があった。
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成27年7月29日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：狭隘道路に隣接する工場敷地
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	警防調査
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：防火対象物(目標物)の所在地等の確認・調査業務
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[41]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[23]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [頻繁]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[26]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[22]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	消防ポンプ車隊	防火対象物(目標物)の所在地等の確認・調査業務を開始する。	
経過2	消防ポンプ車隊	事故発生地点にて当該調査建物の所在地を確認する。	
経過3	当事者A(隊長)	道路狭隘のため、方向転回(後退)を判断、機関員(当事者B)へ指示する。	
経過4	当事者C(隊員)	車両後方の誘導を行う。	誘導方法(警笛、手信号)
経過5	当事者B(機関員)	方向転回(後退)を開始する。	
経過6	当事者A(隊長)	危険箇所(ガレージ)に接近したため、車両を停止させる。	
経過7	当事者A(隊長)	危険箇所(ガレージ)との接触の可能性を当事者Cに確認させる。	
経過8	当事者C(隊員)	接触の可能性なしと判断する。	
経過9	当事者B(機関員)	方向転回(後退)を再開する。	
経過10	当事者C(隊員)	車両積載の三連はしごにガレージが接触しそうになり、緊急に車両停止を求める。	
経過11	当事者B(機関員)	車両停止が間に合わず、ガレージと接触して、三連はしご(基底部)が破損する。	
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか?
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか?

その他 : 事故による怪我なし

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

KYTによる事故の振り返りと原因認識・危険把握・改善策の検討を行った。

○装備・資機材の対策について

運転・走行訓練を通じて、車両の基本構造(車高、車幅等)、機能特性・性能(内・外輪差、回転半径、死角範囲等)を把握、技術向上を図った。

○活動環境の対策について

危険箇所における車両誘導は、2名以上で行う。

○指揮・情報伝達の対策について

代替方法がある場合は、安全面を最優先の意思決定事項として判断する。
車両誘導の注意点や方法、機関員とのコミュニケーション方法をトレーニングして、共通認識と技術の標準化・向上を図りました。

事故発生状況図

